

会 議 名	平成30年4月第1回定例記者会見
日 時	平成30年4月5日(木) 午前10時15分～
場 所	庁議室

発言者	内 容
広報課長	<p>開会</p> <p>それでは、ただいまから定例記者会見を始めます。本日の市からの発表事項は2件、幹事社からの事前質問は1件となっております。それではお願いいたします。</p>
市 長	<p>市からの発表事項</p> <p>市長記者会見を動画で配信します ～「開かれた市政」を目指して～</p> <p>皆さん、おはようございます。</p> <p>今日は私の方から2つ発表させていただきます。</p> <p>まず、順番が逆になってしまいますが、この会見そのものに関係する話なので。本日の市長記者会見から、記者会見の様子を動画で市の公式ホームページに配信することにいたします。記者会見での私の説明や皆様とのやりとりをそのまま配信することで、市民の皆様により開かれた市政を目指していきたいと考えております。それがまず1点目であります。</p> <p>「福島市アクション&レガシープラン2018」を策定しました ～東京2020大会に向けて～</p> <p>それから、2点目はオリンピック・パラリンピック関係です。</p> <p>この度、「福島市アクション&レガシープラン2018」を策定いたしました。福島市では、昨年5月に「福島市アクション&レガシープラン」の基本計画を作成しておりました。今回は、これに大幅に肉付けをいたしまして、これからオリンピック・パラリンピックに向け、市民の皆様と一緒に盛り上げて準備を進めていこうということで、この「アクション&レガシープラン2018」という形で策定をさせていただきました。</p> <p>これまでの計画は関係者のみで共有するという形で、あまり皆様に公表しておりませんでした。今回はこれを公表することといたしまして、そして併せて今日お配りしている概要版も作成をして見ていただくということでございます。アクションの多くは市民の皆様、あるいは市民団体が主役になっていただくべき内容</p>

にもなっておりますので、今回市民の皆様にお示しをして、そして市民の皆さんが更にやる気を出して盛り上げていただけるとありがたいと思っております。

今回の特長を申し上げますと、この概要版で申し上げますと、「1、2、3、4、5」と一番左側にあります。その「1、2、3、4、5」の中に、例えば、「1. 野球・ソフトボール競技の開催」や、あるいは「2. 事前合宿の誘致受け入れ」と、このような柱があるわけですが、この柱ごとにどういうレガシーというか遺産・財産として残していくのかという目標・イメージを設定いたしました。

例えば「1. 野球・ソフトボールの開催」でいうと、「○」のところがありますが、「また来たくなる観光都市」というのがあります。それから「2. 事前合宿の誘致受け入れ」でいうと、「選ばれる合宿都市」を目指していくということ。「3. 文化プログラムへの参画促進」ということでいうと、「地域が輝く文化都市」を目指す。「4. ホストタウン事業の推進」という点でいうと、「未来につながる国際都市」を目指す。最後の「5. 大会機運の醸成」ですと、「オール福島で参画都市」を目指すということ。このようなイメージを作っております。その上で、レガシーの創出に向けて新設・拡充する28の基本目標、この真ん中ほどの黒い四角になっているところですが、これを設定いたしまして、このような基本目標を達成するためにはどのようなアクション、行動を起こしていけばいいのかということで、アクションの例として一番右側の黄色の枠の部分になりますが、こういったところの事例記載をいたしました。

内容は、かなり我々がやりたいというものから、あるいは、今のところこういうものを考えられるなというアイデアにとどまるものまでいろいろなことを書いてあります。それは今後、市民の皆様との協議を進めながら具体的に進めていきたいですし、ここにはないものであっても2018という現時点での計画ですから、今後盛り込むということもあり得る。こういうもので作成をいたしております。

この中で、特にボランティアの養成、一番右の上のところがありますが、「大会ボランティアの募集」「都市ボランティアの募集」と書いてあります。これらは組織委員会で議論になっていきますように、どうなっていくのか現時点では我々からするとよくわからない部分です。しかし、それを待っているとなかなかボランティアの養成もできませんので、我々としては、今ある花案内人さんなどのボランティアの方々の養成講座を、要するに、市の観光や市の街づくりに役立つようなボランティアを自主的にどんどん

進めていき、その上で最後オリンピック・パラリンピックの開催に役立つようなボランティアの方に移していくという、先手を打った取り組みを進めたいと思っております。

また、2つ目の枠の中では、例えば、「合宿の街づくり」ということを打ち出しているわけですが、合宿の街づくりに向けて市民の皆さんと勉強会を立ち上げて、これからどのようなことを市として、あるいは民間として取り組みを進めていっていいのか、このようなことを話し合っていきたいなと思っております。また、今回のオリンピック・パラリンピックでは、福島市で開催されるのは野球とソフトボールということで、パラリンピックの競技は開催されません。しかし、我々としては、これを機に障がい者スポーツに関しての取り組みや、障がい者に優しい街づくりを進めていきたいと考えておまして、障がい者スポーツを支える街づくりに力を入れていきたいと考えております。

最後に、「大会機運の醸成」という中では、今日、聖火リレーの話が新聞などに出ておまして、だいたい福島県では3日くらいが聖火リレーに充てられるということを伺っております。福島市でも当然聖火リレーを通っていただきたいですし、そうした中で市民とともに喜び、あるいは盛り上げをしていきたいなと思っておりますが、我々は開催都市でもありますから、もっと市民の皆様思い出に残るような大会になってほしいという思いを込めて、福島市版の聖火リレーというか、またはそれに準じたようなことをぜひやりたいと思っております。その場合には、本市だけではなく、まだお話ししておりませんが、県北地域の自治体の皆さんにも声掛けをしてこの圏域全体で連携をして盛り上げるようなイベントにもしていきたいと考えております。

このような取り組みですが、かなり盛りだくさんに入れたつもりです。そのために、新年度からは事務局体制も強化をいたしました。専任の室長を置いた他、兼任を6人から増やして12人体制といたしまして、このオリンピックが福島市で開催されるということはまずないことであろうから、しっかりとこの機会に、我々はその遺産を残せるようにがんばっていききたいと思っております。

それから、何といたっても大事なものは、市民の皆さんとコミュニケーション、あるいは盛り上がりだと思っております。その点では、4月19日（木）に市の推進協議会の総会を開催いたしまして、この「アクション&レガシープラン2018」の説明をしたいと思っております。その上で、市民の皆さんにはこういったことを期待したいとかそういったことを言っていたら、市民の皆さん

	<p>んにも準備していただいて、流れを作っていきたいと考えております。</p> <p>また、今後さらに具体的にアクションの中身を詰めていくためにも、5つの取り組みごとに専門部会を立ち上げて、そしてアクションの実践を進めていきたいと考えております。</p> <p>その他</p> <p>2018ミスピーチキャンペーンクルー募集</p> <p>発表事項としては以上でございますが、もう1つご報告というかお願いがございます。ミス・ピーチでございます。現在募集をしております。4月13日（金）までとなっております。毎年駆け込みが多くなるという話を聞いておりますが、やはり我々にとって非常に大きな問題は風評被害の払拭です。そのためにも、我々とともに福島も果物のすばらしさ、あるいはおいしさをPRしていただける強力な仲間を募集したいと思っておりますので、ぜひ、積極的にご応募いただきたいと思っております。</p> <p>以上です。</p>
<p>広報課長</p>	<p>質疑応答</p> <p>それでは、ただいま発表がありました件につきまして質疑応答に移ります。ご質問がありましたら、挙手・指名の後、社名とお名前をおっしゃっていただき、ご発言をお願いいたします。</p>
<p>記者</p>	<p>「福島市アクション&レガシープラン2018」の「5. 大会機運の醸成」について、大会組織委員会のものとは別に、福島市単独の聖火リレーを開催するということでしたが、費用や最後はあづま球場に点火するなどありましたら、もう少し詳しい話を聞かせてほしい。</p>
<p>市長</p>	<p>まだアイデア段階なので、そこまでは考えていないが、実は組織委員会との関係で、聖火リレーそのものに近いようなものになると、多分ダメと言われると思います。我々にとってみると、聖火そのものを運ぶのが重要なのではなく、みんなでつないで盛り上がっていこうということが大事なので、例えばたすきでもよいと思うのです。そういったものをつないで、私のイメージでは、市内各地あちこちからスタートして、最後オリンピックの会場の方へ集まって盛り上げるような、そういうイメージをしています。そのような取り組みをぜひしたいなと思っております。多くの方が参加できるような取り組みにしたいと思っております。</p>

記者	火を運ぶということではないわけですね。実際に走るのは市民の小学生・中学生というか、みんなで走って盛り上げていく趣旨のものなのではないでしょうか。
市長	そうですね。聖火ではないとは言い切れないが、なかなかハードルが高いのではないかと予想をしています。あとは、ぜひ思い出に残るようにという点では子どもたちに多く参加してほしいと思いますし、今回はオリンピック・パラリンピックですから、障がいを持つ方や高齢の方でも元気にスポーツする方など、いろいろな方に参加いただいて、市民総ぐるみで盛り上げ、喜び合えるような企画ができたらと思っております。
記者	県北の自治体にも声を掛けるということですが、今のやりとりですと福島市内の話に聞こえたのですが、県北の自治体と一緒にやるのか、福島市版としてやるのでしょうか、福島版なのではないでしょうか。
市長	「福島版」と言ってもよいでしょう。起点が福島市内だけではなくて、近隣の市町村であってもいいですし、そういうところからも出発して集まってもらうような企画が、より広域で盛り上げていいのではないかと思っております。
記者	特に福島市内に限定するおつもりはないということですか。
市長	はい。
記者	もう1点関連なのですが、聖火リレーが被災地で3日間、東京は15日間という案がまとまったという報道がありましたが、被災地それぞれ3日間というのは復興五輪という位置づけで鑑みて、どう評価するかお聞きしたい。
市長	3日間ということで、他の地域とは違う扱いにいただいたという点では、復興五輪の趣旨を十分に踏まえてやっていただいたのではないかと私は思います。全体として経費もかかる話にもなりますので、どこかでおさめなくてはいけないと思うのですが、その中ではそれなりにご配慮いただいたと思っております。
記者	3日間ということだと、福島県内は広いので、被災エリアもかなり広範囲になるので、オフィシャルの聖火リレーでくまなくまわるのはスケジュールがタイトになるのではと予想されるので

<p>市長</p>	<p>すが、「福島版聖火リレー」というアイデアは、オフィシャルの聖火リレーがもの足りないから出てきた発想なのか、それとも全く関係ないのでしょうか。</p> <p>もの足りないうんぬんの話ではないと思います。私は聖火リレーは聖火リレーで、全国をあげて盛り上げていこうという話ですから。私が非常に印象に残っているのは、商工会議所の渡辺会頭が前回の東京オリンピックで聖火リレーをやっているのです。高校3年生のときです。それが非常に印象に残っていて、その思い出が渡辺さんというすばらしい商工会議所の会頭を生んだという一因になっているのではないかと考えていて、その点ではそういう思い出が残る人、あるいは身近で見るということを、もっとそういう機会を増やしたいと考えていて、その点では我々は全国的でも数少ない開催地ですから、ぜひ福島市と福島市広域で、みなさんの思い出になる取り組みをやりたいと考えております。</p>
<p>記者</p>	<p>専門部会を起ち上げるということでしたが、体制等で何か考えていることがあればお話しいただきたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>いや、まだ具体的なことは考えておりません。市が事務局なので、市が中心となって、民間のキーパーソンとなる方と連携をはかりながら専門部会を起ち上げていきたいと考えております。</p>
<p>記者</p>	<p>ボランティアについてですが、大会組織委員会のボランティアは事故であるとか、無償であるとか有償であるとか、いろいろな問題点があがっていますが、その全体の中での位置づけとしてのボランティアの一部として含まれるものということによろしいのでしょうか。市として先行してボランティア養成を進めていく中で、具体的にどういった形を考えているのか伺いたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>福島市でもインバウンドなどに力を入れておりますし、オリンピックにおいても世界中から来ていただきたいと考えております。ボランティアが多いというのは、我々には非常に大きな財産となりますし、これはオリンピックに限らないと思うのです。今からどんどん養成をしていきたいと考えております。一方で、大会ボランティアや都市ボランティア、要するに、組織委員会の定義にあるボランティアというのは、何らかの要件が出てくると思います。その要件は、我々が養成しているボランティアで満たせばそのままOKですし、足りなければ足りないなりに、我々の養成す</p>

	るボランティアに上乘せすれば養成できると思うのです。組織委員会の基準を待つてやるよりは、我々がどんどんやっていって後で必要なものを付け加えれば円滑に確保ができますので、そういう面での先手を打った取り組みをしたいということです。
記者	今年度中に募集を始めるということでしょうか。
市長	これからどういう養成をやっていくかということですね。すでにいろいろなボランティアの方がいらっしゃいますので、その方々と団体などと相談をしながら進めていきたいと思います。
記者	規模はどのくらいですか
市長	特段考えていません。
記者	カウントダウンイベントについてですが、現在どういったことを進めていますか。
市長	中身はまだ申し上げられる段階にありませんが、2年前のカウントダウンイベントというのはぜひ開催していきたいと考えております。これも全国のものがありますので、それとの関連もうまく考えながら開催をしてきたいと思います。
記者	アクションの例があげられていますが、具体的なプランやアクションが出てくるのは来年度以降になるのでしょうか。
市長	基本的には「2019」というプランが出てくるということでしょうね。堅苦しく考えないで、いいものが出てきたらどんどん付け加えていくという形でいいと思います。無理だとなったらやめればいいでしょうし。
記者	専門部会を起ち上げるというのは、アクションの例での部会でしょうか。
市長	いえ、この左側にある5つの項目です。
記者	東京オリンピックの受け入れ体制について、たくさんの方が福島市を訪れることはいいことだと思うのですが、その一方で、原発事故からの復興作業で多くの方がすでに入っているということで、一部の市民の方から受け入れるときに宿が足りなくなるので

<p>市長</p>	<p>はないかということなどの懸念を聞きますが、そのあたりの受け入れ体制について、市長のお考えなど何かありましたらお聞かせいただきたい。</p> <p>あまり抽象論をしてもしょうがないと思います。復興関係の事業といいますと、公共事業はピークアウトしましたし、除染も我々は終わりました。残っている搬送というのが大きな業務としてありますが、どれだけ人がいるのかというと、これまでよりだいぶ少なくなります。宿の方は、今も少ない面があるので、福島市としてはこれから増やす努力というか、観光客を増やすこと自体がパイを増やすことになりますので、そういう努力はこれからはしていきたいと思います。</p> <p>我々にとって大事なものは、今話が出ているボランティアのような、市民が受け入れる、あるいは市民が準備するというのが非常に重要なポイントになると思います。その点では、復興の事業をする人とは若干違うのではないかと考えているので、その点では、私はこのオリンピックに向けて、福島県内で考えている分では大きな影響はないのではないかと考えております。</p>
<p>記者</p>	<p>宿の対策としては、なんとかやっていきたいということでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>ハードを伴うとなると、今からでも間に合わない可能性がありますよね。我々としては、さまざまな街づくりの課題がありますので、そういう課題の中で、例えば、私は、今年中に駅中心部の街づくりの青写真をお示しすると言っておりますので、そういう青写真を見ながら、民間の方には意を強くしてホテルなどの投資をやっていっていただきたいと思っております。</p>
<p>記者</p>	<p>「1. 野球・ソフトボール競技の開催」にあるアクションの例について、「無料Wi-Fi環境の整備」と「歩きタバコ禁止エリアの設定」とあるのですが、外国人観光客を迎え入れるにあたって大事なことだと思うのですが、それらはどういうエリアに設定するのか。日本のWi-Fi環境は悪いと言われていますが、いつまでにどのくらい実現するのか知りたいのですが。</p>
<p>市長</p>	<p>Wi-Fiは、すでに多くの公共施設で整備をしておりますが、今後民間施設も含めて、主要な観光客が訪れるようなところはWi-Fiがきちんと整備できるようにしていきたいと思っております。これ自体は現時点で進めてあるものなので、しっかりとチェックをしながら、しかも使いやすいものにしていくのが大事なので、き</p>

	<p>め細かさをもちながらやっていきたいと思っております。歩きタバコ禁止エリアの設定に関しては、今回の当初予算には盛り込んであるのですが、エリアを設定できる条例を作るかどうか、条例の必要性も含めた検討経費を盛り込んでおります。条例化するかどうか、あるいは区域にしてもどの区域でやるか検討していきたいと思っております。区域の設定でいいますと、中心部を中心に皆さんが訪れる地域が中心になるかと思われれます。</p>
記者	<p>条例というのは、いつぐらいですか。</p>
市長	<p>条例化するのであれば、2年ぐらいで作らないといけなんでしょう。そういう時間間隔でやってきたいと思います。</p>
広報課長	<p>時間の関係もありますので、市長質問につきましては、最後お1方にさせていただきたいと思います。ございましたら挙手をお願いします。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>幹事社からの事前質問</p> <p>それでは、次に移らせていただきたいと思います。今回、幹事社より事前質問が1件ございました。福島民友新聞社様から質問のご主旨についてご説明をお願いいたします。</p>
記者	<p>新年度に入りましたので、市長の市政運営について改めて考えをお聞きしたいと思いますが、よろしく願いいたします。</p>
市長	<p>私自身、就任してようやく4か月になろうとしたところですが、基本的に運営の方針については変わっておりません。これまでも申し上げている通り、大震災から8年目に入った今も課題が多く、復興道半ばの状態にあるかと思えます。その一方で、東北中央自動車やオリンピック・パラリンピックの開催、あるいは大学のほうも徐々に具体化してまいりました。そういった状況をしっかりとらえて、かつ、4月には中核市に移行しました。こういったことは、まさに我々が飛躍する環境が整ってきた、機が熟してきたのだらうと思っております。その点では、こういった状況をしっかりとらえて、市民の皆様から寄せられる期待感を推進のエネルギーに変えて、復興を加速し、福島の元気あふれる新ステー</p>

	<p>ジを作っていきたいと考えております。特に、いろいろなものの時間が迫っておりますので、その点では、ひとつは「開かれた市政」をモットーと、さらに「スピードと実行」。この2つをモットーに市民総参画いただきながら、積極果敢に政策を展開していく。そして、風格ある県都として、福島市だけではなく、県北、県内全体への貢献をしていきたいというのが私の抱負です。</p> <p>中核市になりまして、これまでより気持ちが強くなったという点でいうと、中核市の移行式典で申し上げましたが、「健康と命を守る取り組みの推進」、それから「市民サービスの向上」、「風格ある県都としての都市機能の強化と広域連携の推進」、こういったことは改めてしっかりやっていかななくてはと気持ちを新たにしております。</p> <p>以上です。</p> <p>とにかく、いろいろなものが迫ってきているのは間違いないです。街づくり、オリンピック関係。それから先週もお話ありました待機児童。ひとつひとつ取り組んで、チェックしながらやっておりますが、やっぱり難しい課題だと思っているので、これからも気を抜かずにやっていって、待機児童ゼロを目指して頑張っていきたいと思っております。</p>
<p>広報課長</p>	<p>その他の質疑応答</p> <p>時間が若干残っておりますので、質問等ございましたら。</p>
<p>記者</p>	<p>中核市と関連しまして、郡山市の藤森元市長が先日亡くなられました。中核市としては先輩にあたるわけですがけれども、郡山市の藤森元市長の功績等についてどのように思われますでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>藤森元市長が亡くなられたということにつきましては、心からご冥福をお祈りいたします。私自身、藤森元市長が市長をされていた頃は福島市におりませんでしたので、正直申し上げますと、報道関係でしかよくわかりません。コメントできるものはもっておりませんので、控えさせていただきたいと思えます。</p>
<p>記者</p>	<p>知事選について伺います。</p> <p>先日、1日に自民党の福島県連が定期大会を開きまして、次の知事選では最適任者を擁立するという決議を承認しました。内堀氏の支援は明記しませんでしたでしたが、県連幹部は最適任者とは内堀さんのことだとおっしゃっておりまして、事実上内堀さんの支援を決めた形なのですが、木幡市長はこれまで内堀知事を連携をはかってきておりまして、現職の内堀さんを支援する考えはあります</p>

市長	<p>でしょうか。</p> <p>政治的な話で微妙な問題かもしれませんが、内堀知事に関して申し上げますと、私は復興局長時代、あるいはその前から、ずっと知事の副知事時代からの活躍も拝見させていただきました。本当に一生懸命やっておられますし、福島の復興がまだまだ半ばであるにしても進んでいるのは、内堀知事のご功績が非常に大きいのではないかと考えております。そうしたことを踏まえて、今後どうされるのか、我々も市町村の立場からいろいろな方々と相談しながら、知事選の対応を考えていきたいと思っております。</p>
----	---